

# 学校評価報告書

宮城県立西多賀支援学校

## 1 本年度の目標

### (1) 特別支援教育の専門性向上

- ①児童生徒の能力と可能性を伸ばす教育の実践と研究
- ②研修による知識と教育技術の向上
- ③自立活動の概念理解と指導力の向上
- ④障害者理解による児童生徒に寄り添う適切な教育
- ⑤外部専門家と連携した支援技術の向上

### (2) 学習内容の改善と充実

- ①カリキュラムマネジメントによる授業の評価と改善
- ②自立活動の実態把握から指導内容に至るまでの評価
- ③キャリア教育と職業教育の充実
- ④教務支援システムを活用した個別の指導計画に基づく適切な授業実践
- ⑤授業実践における三観点別評価の推進

### (3) センターの機能の充実

- ①心身症、精神疾患の児童生徒等への教育支援
- ②一時入院児童生徒への教育支援
- ③就学指導等に関する教育相談機能の充実

## 2 本校の学校評価の運営について

### (1) 実施時期

前期 7月、後期 12月

### (2) 評価項目について

本年度の努力目標の達成に必要な具体的な取組を、自己評価の評価項目として設定した。保護者対象には保護者の学校へのニーズは何かという視点から質問事項を設定した(後期のみ)。

### (3) 評価について(評価指標)

評価項目の各指標は、教職員対象・保護者対象ともに、A「よくできている」、B「だいたいできている」、C「あまりできていない」、D「できていない」、の4段階とした。ともに、A+Bを肯定的な評価を意味する評価指標と捉え、自己評価全体を捉えることとした。また、\*A+Bが90%未満及び文章表記における検討事項を取り上げ、最善策を模索した。

## 3 前後期の結果

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| (1) 前期自己評価(教職員)      | 別表1 |
| (2) 後期自己評価(教職員)      | 別表2 |
| (3) 保護者対象アンケート       | 別表3 |
| (4) 検討事項*に対する改善案(前期) | 別表4 |

- (5) 検討事項<sup>\*</sup>に対する改善案（後期） 別表5  
(6) 検討事項に対する改善案（保護者） 別表6

#### 4 成果と課題の整理

自己評価は7月（前期）及び12月（後期）に実施した。

前期の自己評価では、「円滑な学校運営のための連絡・調整」について、また「会議内容の充実と精選」など、組織運営に関する課題を感じている教職員が多く、前年度比でポイントを下げていた。「会議内容の充実と精選」については、必要に応じて紙面報告に切り替えたり、教職員の意見を広く取り入れて会議の内容や持ち方、回数を見直したりすることで、後期の自己評価では、肯定的な評価のポイントを上げることにつながったと考える。一方で、「円滑な学校運営のための連絡・調整」については、前後期を通じて、課題として取り上げるべきポイントとなった。意見交換を行い、共通理解を図ることが、風通しの良い学校につながると考える。そのためにも縦の連絡・調整と横の連絡・調整をバランスよく行うための組織（主事会など）を定期的又は必要に応じて設けることを検討していく必要がある。

保護者対象アンケートでは、おおよそが肯定的な評価であった。保護者として、我が子が楽しく登校している様子を、安心して学校生活を見守っていることが伝わる結果であった。次年度への課題としては、「①質問事項の文言の整理」「②学校の取組の周知方法（学校だよりの更なる充実）」「③社会に開かれた学校」が挙げられる。すぐに取り掛かるべきもの、段階的に取り入れ、検証しながら進めるもの等を見極めながら進めていく必要がある。

#### 5 改善策と今後の取組

課題に対する改善策について各学部、各分掌部で話し合い、学校評価全体会で情報共有し、次年度に確実に引き継いでいくことを確認した。

「進路指導に関する情報提供」については、これまでの個別の進路相談会に加え、次年度は、進路説明会や進路ケース会を設けるなど、学部の段階に応じた適切な形での情報提供を行っていくことを確認した。「いじめ問題対策委員会やアンケートの周知方法」については、その結果をHPに掲載したり、お便りを配布したりして周知しているところであるが、「進路指導の取組」「安全管理」等も含めて学校だよりの内容を充実させ、広く理解を求めていきたい。

昨年度途中に、手術治療のため隣接する西多賀病院へ短期入院する小学生があり、数年ぶりに「一時入院する児童生徒への教育支援」を行った。昨年度始めには、本校小学部の準ずる教育課程の在籍はなかったため、臨時に体制を組み、在籍校や病棟と密に連携を取りながら支援を行った。本人の学習に向かう気持ちや、治療や復学への不安などに寄り添うことができた。今年度は短期入院した児童生徒がいなかったため、今後も、継続的な体制で支援をしていけるよう確認していく。

#### 6 学校関係者の評価

2月に学校評議員による学校関係者評価委員会を行った。

以下のように、今後の取組への励ましと助言の言葉をいただいた。

- ・専門性を高める取組がなされている。今後も継続してほしい。

- ・入院生よりも通学生が増えていることについて、隔世の感を感じる。時代に合わせた対応を今後もお願いしたい。
- ・各学部とも実態や年齢に応じた取組がなされている。医療的ケアを実施しながらの指導で苦労はあると思うが、安全安心な学校づくりを基本としながら進めてほしい。
- ・次年度から、保護者対象の評価項目の文言を変えることについて、保護者の意見が反映されるよう、そして具体的な意見を導き出せるように整理するとよい。